《第96回》令和三年六月の作品

〈六月十一日（金）　通信句会〉

自転車の母子揃ひの夏帽子　（隆治）

あてどなく樹木を巡り玉の汗　（平六）

目高の子三ミリ程の波立てり　（貴美）

スタート待つティグランドや蝉時雨　（奉男）

老鶯をひとり占めなる埼杜（みさきもり）　（正雄）

紫陽花の大きな毬に朝日差す　（正佳）

七変化雨が降る降る雨が降る　（前歩）

マリーナに珈琲の香や薄暑光　（孝昭）

故郷へ移住と決めし柿の花　（芙紗）

大自然の恵みの新茶飲みにけり　（清助）

薔薇の門くぐりて友を訪ねけり　（一江）